

日本語のつなぎ語翻訳での **BUT** の使用について  
—逆接の意味が漂白化した場合—

田岡 育恵  
情報科学部 情報メディア学科  
(2023 年 11 月 22 日受理)

On the Use of *BUT* in Translation of Japanese Connectives  
-The Cases of Bleached Adversative Meaning-

by  
Ikue TAOKA

Department of Media Science,  
Faculty of Information Science and Technology

**Abstract**

The Japanese conjunctive particles *ga*, *keredomo*, and the conjunction *shikashi* are used where the denial or contrast of a proposition is not explicitly expressed. Taoka (2023) examined cases where the adversative meaning of *but* seems to be bleached. Accordingly, we investigate whether there are any differences between these cases of *but* and those of *ga*, *keredomo*, and *shikashi* when their adversative meaning is bleached. This study aims to compare the Japanese and English connectives of bleached adversative meaning by focusing on whether *but* is acceptable as a translation for Japanese sentences using *ga*, *keredomo*, and *shikashi*.

キーワード ; 意味の漂白化, 反意のつなぎ語

**Keyword** ; bleaching in meaning, adversative connectives

---

\*2023 年英語語法文法学会第 31 回大会ワークショップで口頭発表(2023 年 10 月 21 日, 桜美林大学)

## 1. はじめに

接続助詞「が」の辞書の記載には、逆接、対比に言及しない用法がある。<sup>1)</sup>

- (1) 単に前の句をあとの句へつなぐ意を表す。「なかなかの美人だが話し上手だ」「すみませんが、しばらくお待ちください」
- (2) 前後の句を接続し、共存的事実を示す。「きのうお訪ねしましたが、たいそうお元気でしたよ」
- (3) 前置きや補足的な説明として示し、あとの叙述に結びつけることを表わす。「この間の話ですが、あれはその後どうなりましたか」/「いいにおいがするが、今晚のごちそうは何だろう」/ 関連のある二つの事柄を結びつけることを表わす。「値段も安いが、品もよくない」/「子供も子供だが、親も親だ」

接続助詞「けれども」の辞書の記載には、逆接、対比に言及しない用法がある。<sup>2)</sup>

- (4) ある事実を前置きとして述べ、本題に結びつける意を表す。「経験から言うんだけど、時間には厳しいほうがいい」「これおもしろい本んだけど、君読まないか」/ 二つの事柄を単に結びつける意を表す。「野球番組も好きだけど、音楽番組も好きだ」「時間もないんだけど、金もない」
- (5) 話の糸口として述べられた事柄をごく軽い気持ちで、次に述べる事柄と結びつけることを表わす。「明日は雨が降るそうですけれどもお出かけになりますか?」/「さっき何か話したい事があるとっていたんだけど、何の話だい?」

「しかし」にも、逆接ではなく、話題を転換する、話題を持ち出すときに用いられる用法が記載されている。<sup>3)</sup>

- (6) 今まで述べてきた事柄を受けて、話題を転じるときに用いる。それはともかく。それはそれとして。「よく思い切って会社をやめたね。しかしこれからどうするつもりなの」/ 感情をこめて言いはじめるときに用いる。それにしても。なんとまあ。「しかしよくこんなりっぱな家を建てたものだ」
- (7) 感動をこめて話題を持ち出すのに使う。それにしても。「しかし大きいね」
- (8) **文法** 「相変わらず景気は悪いね。しかしそれにしても暑いね」のように、それまでの話題とはまったく関係のない新たな話題を導入する場合に使われることもある。**運用** 口頭語で、特に前の話の内容を受けずに、感動詞的に用いるときは、感心したり、あきれたりした気持を含意することがある。「しかし君もよく働くねえ」

このように、日本語の逆接表現に逆接の意味が漂白化しているような用法が辞書に取り上げられているが、他方、英語の *but* の用法にも、(9)~(12) のように逆接の意味が漂白化したような「怒り、驚きなどを表す」、「謝罪の後に用いる」、「話題転換する前に用いる」、そして、「語や陳述の強調に用いる」という用法が辞書に記載されている。<sup>4)</sup>

- (9) *spoken used when you are **replying to someone and expressing strong feelings such as anger, surprise, etc.**: 'They won't even discuss the problem.' 'But how stupid!'*
- (10) *spoken used after expressions such as 'excuse me' and 'I'm sorry': Excuse me, but I'm afraid this is a non-smoking area.*
- (11) *spoken used to **change the subject of a conversation**: But now to the main question. / But tell me, are you really planning to retire?*
- (12) *spoken used to **emphasize a word or statement**: It'll be a great party —everyone, but everyone, is coming.*

*/ They're rich, but I mean rich.*

逆接の意味が希薄化した日本語の逆接表現と、同様に逆接の意味が希薄化している *but* は互いに相応するものなのだろうか。 *but* の用例を和訳する際には、日本語の逆接表現が用いられるのかどうかについては、田岡 (2023) で考察した。<sup>5)</sup> 「怒り、驚きなどを表す」、「謝罪の後に用いる」、「話題転換する前に用いる」、「語や陳述の強調に用いる」の用例については、日本語の逆接表現を用いて和訳して問題はな いと思われたが、唯一、「語や陳述の強調に用いる」用法では、次のように日本語の逆接表現で和訳するのは不適切だということを述べた。

(13) *It'll be a great party — everyone, but everyone, is coming.* それは素晴らしいパーティーになりますよ。みんな、(？けれども／？しかし)、みんな来ますよ。

(14) *They're rich, but I mean rich.* 彼らはお金持ち、(？けれども／？しかし)、お金持ちなんです。

さて、本稿では、今度は逆に、逆接の意味が希薄化したような「が」、「けれども」、「しかし」の用例を英訳する際に *but* を用いて英訳することができるのかどうかを見る。日本語の逆接表現は「が」、「けれども」、「しかし」だけではないし、英語の逆接表現も *but* だけではないが、ここでは便宜上、これらに絞って考察する。

## 2. But で英訳可能な場合

では、(1)～(8) の例文を英訳する際、*but* を用いることができるのかどうかを見ていく。例文の容認性についての判断は英語母語話者による。*and* を用いる方が、あるいは接続詞をまったく用いない方がより一般的と思われる場合があるが、ある解釈の下では *but* を用いることが可能なら、*but* で英訳可能とする。

先ず、先行認識の否定が考えられる場合は *but* を用いて訳すことができる。

(15) なかなかの美人だが話し上手だ。

*She is quite beautiful, but a good talker.*

(16) 値段も安い、品もよくない。

*The price is low, but the quality is not good, either.*

(17) 子供も子供だが、親も親だ。

*The kids are bad, but their parents are also bad.*

(18) 野球番組も好きだけれども、音楽番組も好きだ。

*I like baseball programs, but I also like music shows.*

(19) 時間もないけれども、金もない。

*I don't have time for it, but I don't have money, either.*

(20) きのおお訪ねしましたが、たいそうお元気でしたよ。

*I visited him yesterday but he was very well.*

(21) 明日は雨が降るそうですけれどもお出かけになりますか？

*I hear it is going to rain tomorrow, but are you going out?*

(22) よく思い切って会社をやめたね。しかしこれからどうするつもりなの。

*You had courage to quit the company, but what are you going to do from now?*

(15) では、「美人だけれども、美人で話が上手ということ稀だ」という認識を話者が持っていたとしたら、その先行認識が否定されるので *but* の使用は理解できる。(16) では、「値段は安いけれども、品はよいということがある」という先行認識があれば、それが否定される。(17) では、「子供は悪いが、親は良い場合がある」という先行認識があれば、それが否定される。このように、先行認識の否定が考えられるなら *but* の使用はおかしくはない。(18) は、「野球を見るのが好きなら音楽番組は見ない」のかというと、そうではないという想定が考えられるので *but* の使用は考えられる。(19) は、「時間がな

いけれどもお金はある」という想定もあり得るが、そうではないのだと否定され、*but* が使用されてもおかしくはない。(20) は、話者が、たとえば「訪ねて行った相手は健康を害しているかもしれない」と思っていて、しかし、訪ねてみれば元気で、その想定が否定されるというような場合なら *but* が用いられ、そのような想定がなければ *but* はおかしいということになるだろう。(21) も「雨が降るなら外出はしないかもしれない」という想定が考えられ、雨が降っても外出するなら、そこに譲歩があり *but* の使用は考えられる。(22) は、先に会社を辞めた勇気をほめているので、会社を辞めたことを肯定するのかと思えば、これからどうするつもりなのかと聞いてきて、必ずしも相手は会社を辞めたことについて肯定しているわけではなく、今後の不安について聞いている。話題の流れを変えるという点で「話題を転換する」*but*に通じるように思われる。話題転換の *but* とは、(23) のようなものである。<sup>6)</sup>

(23) used for **changing the subject** *mainly spoken* used when you are **saying that you should not talk about a subject you just mentioned**: *It was a very complicated operation. But I don't want to bore you with all the details. / There's also the question of how we're going to pay for this, but we can discuss that some other time.*

(23) の最初の例文では、「とても複雑な操作だ」と言って、その話を続けるのかと思えば、「君をこのことで煩わせたくない」と打ち切る。2つ目の例文でも「どのように支払うのかという問題もある」と言い出しながら、「それについては別の時に話し合おう」と打ち消している。先行する話題を続けたいという前振りとして *but* が用いられている。(22) でも、「会社を辞める勇気があった(相手に肯定的と取れる発話)」⇒「これからの生活の当てはあるのか(不安を煽るとも取れ、相手の行動に否定的な発話と考えら

れる)」に移っている。

(24)~(26) の *but* も容認できるとのことであったが、これらも「この間の話」、「今晚のごちそう」、「君が言っていたこと」と、話題を切り出しているのだから、これらも話題転換する *but* につながるのだろうか。

(24) この間の話ですが、あれはその後どうなりましたか。

*It's about the matter we talked about the other day, but what happened after that?*

(25) いいにおいがするが、今晚のごちそうは何だろう。

*It smells good, but what is the dinner tonight?*

(26) さっき何か話したい事があると言っていたけれども、何の話だい？

*You said you had something to tell me, but what is it?*

しかし、(23) の *but* の用例では、*but* の後で新しい話題へ移っているのだが、(24)~(26) では、「が」、「けれども」の前で新しい話題「この話」、「いいにおい」、「君が話したいと言っていたこと」が導入されている点が異なる。

(27) のような謝罪表現に続く「が」の場合は、英語でも同様の用法が(28)のように辞書に挙げられているが、このような *but* はよく見られるものである。<sup>7)</sup>

(27) すみませんが、しばらくお待ちください。

*I'm sorry, but please wait for some time.*

(28) *spoken used after expressions such as 'excuse me' and 'I'm sorry'*: *Excuse me, but I'm afraid this is a non-smoking area.*

### 3. *But* での英訳が不適切な場合

ここでは、どのような解釈を考えても *but* を用いるとおかしいと思われる例、*but* で訳すと文意が違っ

てくる例を見る。

(29) はおかしいとしか言いようがないというのが、英語母語話者の判断であった。butの前の「自分の経験から言う」について、butの後の「時間には厳しい方がいい」で否定される想定が何も思い起こされないからだと考える。

(29) 経験から言うんだけど、時間には厳しい方がいい。

(?) I'll tell you from my experience, but you had better be punctual.

(30) は、英文としてはおかしくはないが、日本語の文意と異なる例である。

(30) これおもしろい本んだけど、君読まないか。

This is a very interesting book, but why don't you read it?

(30) の日本語では、相手に本を読むように勧めている。英語の why don't you...? も相手に何かするよことを勧めるときに用いられるのだが、butがあれば何らかの想定否定が想起される。butが何らかの想定否定を想起させるものだという事は、次の例にもうかがえる。<sup>8)</sup>

(31) Elizabeth: It looks fine, but...

Margaret: No, don't come with "buts."

(31) では、“It looks fine, but...”と口ごもったエリザベスに対して、マーガレットがすかさず「butは止めてよ」と言っている。これは、butがその前の“It looks fine”から期待されることを覆し得るというシグナルになるからである。

(30) の英文では、「これは面白い本だから読みたいと思う人は多いだろうに、君は読もうとしないのだね。何故、読まないのだ？」というように、butは

想定否定を誘導し、why don't you...?は、相手への提案、誘いではなく、相手とその本を読まない理由を問うものになる。日本語の文意とは違って来る。

感動をこめて話題を持ち出す「しかし」も、そのままbutで訳せば、日本語の文意とは違って来る。

(32) しかしよくこんなにっばな家を建てたものだ。

But you built such a grand house.

(33) しかし大きいね。

But it's big.

(34) 相変わらず景気は悪いね。しかしそれにしても暑いね。

(?) The economy is still bad, but it's hot here.

(35) しかし君もよく働くねえ。

But you work hard.

(32)~(35)の「しかし」は、それぞれ、家の立派さ、大きさ、暑さ、働きぶりに感心したり呆れたりした瞬間に思わず発せられるものである。butを用いた英文と「しかし」が用いられた日本語とは文意が異なる。butがあれば、何らかの想定否定が考えられるからである。英語母語話者によれば、たとえば、「こんなにっばな家は建てられないはずだ」、「こんなに大きくないはずだ」、「こんなに暑くないはずだ」、「そんなに働かないはずだ」のような想定があるのであればbutは用いられるとのことであった。<sup>9)</sup> これに対して、「しかし」の場合は、そのような先行認識を否定するのではなく、家の立派さ、大きさ、暑さ、相手の働きぶりに感じ入って、思わず発するものである。

他方、このような「しかし」に近いと思われるbutの用法が、(36)、(37)のように辞書に見られる。これらの例文では、それまでの話題に関係せず、感情にかられて唐突に発話しているという点で、(32)~(35)の「しかし」に近いように思われる。ただし、これらでは間投詞を伴っている、あるいは、感嘆文になっている。<sup>10)</sup> (38)は、そのような間投詞を伴



う but のコーパスからの一例である。<sup>11)</sup>

- (36) (口語) (間投詞的表現の後に抑制・修正・理由などの意を暗示して、または驚きを示したり強調する語句を導いて) Heavens! But it's raining! やれやれ雨になっちゃった。But how lovely! (それにしても) 全くきれいなあ。
- (37) (略式) (間投詞・感嘆詞などの後で) (反対・意外などの気持ちが加わるが、ほとんど意味がなく、後に述べる(重要な)内容に対してクッション的な役割を果たすつなぎ語) My, but you're nice. まあ、すばらしいわ。Whew! But I am tired. やあ、疲れちゃった。
- (38) Politely, Muriella hid her curiosity as Marion returned and offered her a horn cup. 'My, but that's good!' She sipped it appreciatively. Marion refilled it for each of them.

英語母語話者の判断では、(32)~(35)の場合でも、次のように間投詞を伴うなら、but を用いて、日本語とほぼ同じことを表しているとのことであった。<sup>12)</sup>

- (39) うわあ！しかしよくこんなりっぱな家を建てたものだ。  
Good heavens, but you built such a grand house.
- (40) ほう、しかし大きいね。  
My, but it's big.
- (41) 相変わらず景気は悪いね。ああ、しかしそれにしても暑いね。  
The economy is still bad, ...my, but it's hot.
- (42) ほう、しかし君もよく働くねえ。  
Good heavens, but you work hard.

しかし、but の場合、間投詞がなければ何らかの先行認識の否定という解釈が想起され、感動のあまり思わず出た「しかし」とは違うように思う。

#### 4. おわりに

(29) のように、but を用いることは考えられない場合、(30) のように、「けれども」の部分を but と訳せば、日本語の文意とは異なる場合があった。これは、but が何らかの想定を想起することと関係するものと思われる。

驚いたり感動したりしたときに用いられる「しかし」と but の対応については、間投詞表現を伴った感嘆文になっていたりする but では、この「しかし」に対応するような例が認められる。ただし、「しかし」は、間投詞がなくて「しかし」だけで出現し、否定される何らかの想定が考え難い場合でも用いられるので、この点が日英語で異なるように思われる。

本稿で見た限りでは、英語よりも日本語の方が、逆接の意味が希薄な場合にも逆接表現を使用しているように思われる。しかし、更に多くの例での検証が必要であり、今後もこの研究を継続していきたいと考える。

#### 注

- (1) は、松村明(監修)『大辞泉 第2版』、東京：小学館、2012年。(2) は、新村出(編)『広辞苑 第7版』、東京：岩波書店、2018年。(3) は、山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之(編)『新明解国語辞典 第8版』、東京：三省堂、2020年。
- (4) は、松村明監修『大辞泉 第2版』、東京：小学館、2012年。(5) は、山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之(編)『新明解国語辞典 第8版』、東京：三省堂、2020年。
- (6) は、松村明監修『大辞泉 第2版』、東京：小学館、2012年。(7) は、新村出編『広辞苑 第7版』、東京：岩波書店、2018年。(8) は、山田忠雄・倉持保男・上野善道・山田明雄・井島正博・笹原宏之(編)『新明解国語辞典 第8版』、東京：三省堂、2020年。
- (9)~(12) は、Longman Dictionary of Contemporary

*English*. 8<sup>th</sup> ed. Harlow: Pearson Education, 2006.

- 5) 田岡育恵「BUT の漂白化された逆接の意味について」『大阪工業大学紀要』67-2, pp. 69-77, 2023年.
- 6) *Macmillan English Dictionary for Advanced Learners*. 2<sup>nd</sup> ed. Oxford: Macmillan, 2007.
- 7) *Longman Dictionary of Contemporary English*. 8<sup>th</sup> ed. Harlow: Pearson Education, 2006.
- 8) ドラマ *The Crown, Season 2*.
- 9) 英語母語話者によれば, (34) については, 前半の *The economy is still bad*. の部分がなければ, 「これほど暑くはない」と思っていたという解釈で理解できるが, 前半部分との整合性ということで文全体としてはおかしく感じられるとのであった.
- 10) (36) は, 竹林滋 (編集代表) 『新英和大辞典 第6版』東京: 研究社, 2002年. (37) は, 小西友七・南出康世 (編集主幹) 『ジーニアス英和大辞典』, 東京: 大修館書店, 2001年.
- 11) *British National Corpus: APW*, 下線は筆者による.
- 12) 英語母語話者によれば, (41) は *my* がある分, (34) よりはよいと思われるが, それでも *The economy is still bad, my, it's hot*. のように, *but* はない方が自然であるということであった. そのおかしさについての考察は今後の課題としたい.